・略歴に就き申上致す。

・自己経歴 昭和廿九年十七歳の時に[illegible]

農業従事卅三年 本年五十歳となります

此の三九じより夫が第二の故郷であります。

・在来同胞の自作農家となる迄の経過

三段階になって居る・一世の吾太郎さんは共同荒地に

[illegible]が 然し今日の生活は 一世の方々の苦闘開きによる。

・農業の機械化 第二大戦後ぼつぼつ始まり

第二大戦後より急速の発達を見て居る、

原因は工場方面の若手不足により高賃金となる

農関係の賃金も上昇となるから、日本国本土より田舎人

の短期契約労働者によって営農されて居る

・戦後廿五年位は好況であったが、年々大勢力に悪くなるにつれ

生産過剰によって此の三年程は赤字経営に近い状況にある、

直接消費者への取引する（[illegible]）

販売の方法は 地方市場と、キャナリーと契約耕作に

なって居る 道路の完備して居るのが州の長所である。

・耕作面積百五十英加の内廿英加は借地外は自己の物

耕作物目 セロリ・レタス・ブロッコリー・カリフラワー たねまめ 冷凍用

ほうれん草・そら豆等もある。セロリ・ピーマン等は 毛作である

外日屋部の毛作になって居るが 一年を通しての延耕作面積は

二百廿五英加程に成る

之れに要する人員は 水引が六人で常時は六人 幹部が十人 只今

[illegible] 六人 外に十人

年間を通じて常時必要である 七月の出荷始期には

四十人位の人員が要ります

・年を通しての農場経営の全盛期間は約十年位であります

・加州農業の増長は半沙漠地帯での地下水の灌漑による

今昔の差、 地下水の下向とポンプの増築。

・農業技術の進歩は大学と農家とが一体となって研究

してきた事である

・開拓精神に敬意を表す